造園植物資源学特論（２単位）

担当者氏名　　高橋新平・濱野周泰・鈴木貢次郎

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

造園植物の分類、特性、植物生理、様々な環境適応、植物生態の領域を包括し、都市地域やその周辺地域における植栽や緑化、植生の再生復元・保全・利活用、森づくり、また、植栽や植生の管理・診断に資する高度な基礎的知見や、手法を講義する。また関連する造園植栽・緑化の研究現状や課題についても提示し、研究手法やその方向性について探求する。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

植物資源　　植生再生　　植物生理　　環境適応

植物個体生態

◆授業の進行等について

	テーマ	内　容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	講義内容とねらい	本講義の内容解説	各講義時に資料を配布する。 配布資料の確認と講義内容を復習しておくこと。 関係する資料を事前に収集し、講義内でのディスカッションに備える。
2	植物と植生の環境効果 1	植物の役割と機能	
3	植物と植生の環境効果 2	植生の存在意義と役割	
4	造園植栽・緑化が必要な場面	都市地域における植栽と緑化	
5	造園植栽・緑化の意義	造園植物の環境と生育性	
6	樹木学の重要性	樹木の形態特性	
7	樹木学の意義	街路樹の育成管理，森づくり	
8	植物学の重要性	造園植物の分類	
9	植物学の領域	植物管理，植物繁殖	
10	芝生・地被学の重要性	芝草と地被植物の造成・管理	
11	芝生・地被学の意義	生育性の特徴	
12	植物生態学の重要性	植生の再生復元・保全・管理	
13	植物生態学の意義	生物多様性	
14	造園学における植物資源の	造園学における植物分野の領域と重要性	
15	活用(総括)	本講義の総括	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

講義時におけるレポート課題内容により評価(100%)

◆オフィスアワー

授業終了時に相談することを基本とする。または造園科学科の各担当科目を参照のこと。

◆その他受講上の注意事項

造園学専攻の主に植物分野に所属する院生の為の知識や情報、調査研究に展開できる研究の視点を展開する